

しいわ われいま よ そ あやま み うち みずか せ もの
子曰く、吾未だ能く其の過ちを見て、内に自らを訟むる者
を見ざるなり。

しつ ぶん か すなわ や ぶん しつ か すなわ し
質文に勝てば、則ち野なり。文質に勝てば、則ち史なり。
ぶんしつひんびん しか のち くんし
文質彬彬として、然る後に君子なり。

【大体の意味内容】先生はおっしゃった。「自分の過ちを見て、心底自分を責めるということが
できる人を、私はいまだ見たことがない。(たいていの人は、自分以外の他人のせいにした
り、環境のせいにしたり、運の良し悪しのせいにしたりして、自分の欠点を改善し、成長す
るチャンスを失っているのだ。)

質実剛健にして、文才華麗さを打ち消してしまうと、野蛮な人間になってしまう。文才華麗を
もって、質実剛健を否定しては、史書記録係のように言葉をもてあそぶだけになるだろう。文
質両面を分けてしまわず、一つのこととして磨き上げてゆくような人が、ほんとうの君子であ
り、信頼のできるリーダーなのである。」

「文武両道」は、勉強とスポーツと、二つの別々のことがあってその両方を別々にこなすこととして言
われています。ですが、ほんとうは、別々のことなのでしょうか。スポーツをこなすにはたんに身体能
力を高めるだけでなく、様々な理論や事例や歴史を学び研究する必要がありますし、勉強するにも集中
力や体力、食事や休息の取り方など配慮しなければなりません。二つのこととして分けて考える方がお
かしいのです。勉強とスポーツとにわざわざ分けて、どちらかのスペシャリストになろうというのは、
ロボットになろうとしているに等しいのです。また勉強とスポーツを別々のものとして、両方ともやる
うとするのも、より性能の高いロボットになろうとしているようなもので、どちらにしても人間として
の成長を放棄しています。ある年齢を越えるとはったり勉強しなくなったり、運動もしなくなったりす
るのはもったいない。年を取ればとるほど、文質不可分に熟練と精妙を増すのです。生きている限り、
修行努力を続けること、こんな楽しいことはありません。「年をとっても勉強したり、修行したりだな
んで御免だ。楽しいわけがない」と決めつける人は、かわいそうな人です。人生百年。そうした年齢に
達してなお、いろんな分野で活躍している『人間の達人』が増えてきています。その人たちは本当に、
輝いています。